

特別史跡加曾利貝塚新博物館基本計画（中間取りまとめ案） 概要版

第I章 施設の基本方針

【本計画の位置づけ】

本計画は、平成29年1月に策定された「史跡加曾利貝塚保存活用計画」（以下「保存活用計画」という。）及び平成31年2月に策定された「特別史跡加曾利貝塚ランドデザイン」（以下「ランドデザイン」という。）に基づき、加曾利貝塚の価値を広く発信し、後世へと継承するためのガイダンス機能を備えた「特別史跡加曾利貝塚新博物館」（以下「新博物館」という。）についての整備方針を策定するものである。

【史跡加曾利貝塚の目指すべき姿】 「保存活用計画」より

- ・縄文文化と貝塚の性格を究明し、調査研究の成果を世界に発信していく拠点
- ・研究成果に基づき、縄文時代の景観と人々の暮らしが体感できる史跡
- ・多くの人が集い、地域交流の中核を担う拠点
- ・人々の長い歴史を学び、自然と調和・共存する持続可能な未来を探る史跡

【新博物館の役割】 「目指すべき姿」実現のため、「ランドデザイン」に基づき担う役割

① 特別史跡として目指す将来像を実現するために担う役割

- ・特別史跡加曾利貝塚の新たな価値を生み出す調査・研究、出土資料と遺構の保存・継承
- ・縄文時代の景観と人々の暮らしを伝える展示・体験
- ・新たな貝塚の調査・研究、保存・整備方法の実験・開発と継承

② 緑地、公園として目指す将来像を実現するために担う役割

- ・縄文時代の景観を一望できる展望スペース
- ・くつろぎの空間を演出するサービス機能
- ・天候にかかわらず、学習や遊びなど多様な活動を行えるスペースの提供

③ 博物館として目指す将来像を実現するために担う役割

- ・幅広い調査研究を推進し、縄文文化と貝塚の性格を究明していく拠点
- ・縄文文化と貝塚に関する資料を収集保存し、後世へ守り伝えていく拠点
- ・調査研究の成果を積極的に公開活用し、世界に発信していく拠点
- ・学校教育や生涯学習など多様な学習を支援し、加曾利貝塚に携わる人材を育てる拠点

【新博物館の基本方針】

- ① 貝塚を中心とする縄文文化研究の拠点としての活動
- ② 自然と調和・共存する持続可能な未来の実現を目指す博物館活動
- ③ みんなでつくる・育てる博物館の実現
- ④ 加曾利貝塚への様々な興味・関心・幅広いニーズへの対応
- ⑤ 体験の重視

【新博物館の利用者層】

ランドデザインの主要ターゲットを再検討し、以下の4つの利用者層を設定



※Sustainable Development Goals
誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標

【SDGs*に基づく新博物館の取組み】

- ① SDGsに沿った博物館整備・運営の推進
 - ・様々なパートナーシップにより、収集・保存、調査・研究を推進する。
 - ・縄文時代の気候変動や資源の利用法を伝え、自然環境と人間生活の関係を考える展示を行う。
 - ・水やエネルギーの効率を高め、安全に利用でき、長く使われる公共施設を目指す。
 - ・地域振興や市民への波及効果を想定しながら、透明性の高い管理運営を行う。
- ② 縄文社会の持続可能性等、SDGsの視点に配慮した調査・研究等の活動の展開

II章 事業活動計画

【事業活動の基本方針】

- ① 活発な調査・研究の遂行
- ② 調査・研究のプロセスや最新の成果を素早く発信
- ③ 縄文時代の暮らしをまるごと体験する機会を提供
- ④ 自ら学び、考える仕掛けを重視し、生きる力を育む
- ⑤ 人々が気軽に何度も集い、交流が生まれる空間を提供

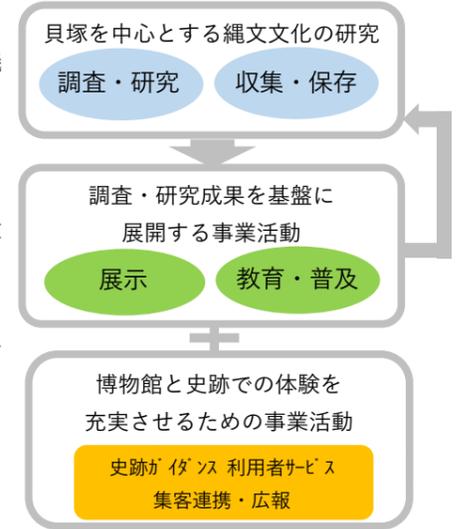
【事業活動の展開】

- ① 調査・研究 縄文文化や貝塚の研究の中核拠点として、関連史跡を有する自治体、研究機関や博物館などと連携し、計画的な調査・研究、情報の収集を行う。
- ② 収集・保存 発掘調査で出土した資料、調査・研究や展示・体験に必要な資料を収集し、埋蔵文化財調査センターなどとの分担により適切に保存する。
- ③ 展示 様々な興味・関心を持つ人々に対して、幅広いアプローチによる展示や体験を展開する。その内容は、調査・研究成果を反映し、常に更新し続ける。
- ④ 教育・普及 縄文文化や貝塚への興味促進を目的としたイベントの開催や体験プログラムの開発、学校教育や生涯学習の支援推進により、地域の歴史や伝統文化に対する誇りや愛着を育む。
- ⑤ 史跡ガイダンス コアエリア、関連史跡など周辺エリアの案内、展望スペース等
- ⑥ 利用者サービス レストラン・飲食、ミュージアムショップ、キッズコーナー等
- ⑦ 広報・集客連携 集客イベントの誘致、周辺施設との連携、情報発信等

【事業活動のテーマ】

LIVING JOMON 生きている縄文

縄文研究の最前線にふれ、縄文時代を丸ごと体験・体感し、学ぶことにより、縄文は過去のものではなく、現代の私たちの生活や考え方の中にも生きており、未来への道しるべとなることを伝える。



第三章 施設計画

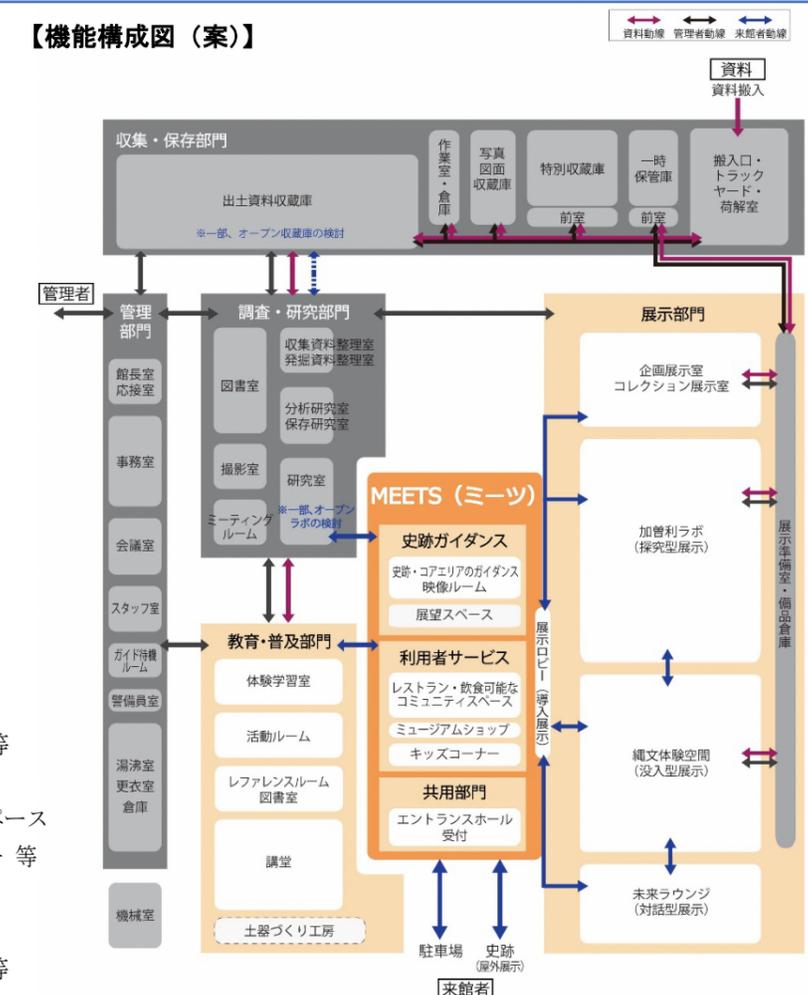
【施設整備の基本的な考え方】

- ① 特別史跡加曾利貝塚との連続性の確保
 - ・史跡や周囲の自然環境との調和
 - ・史跡を望む展望設備の整備、史跡へ誘う仕組みづくり
- ② 博物館としての機能拡充
 - ・調査・研究機能の拡充とその公開
 - ・公開承認施設の基準に適合する施設整備
- ③ 出会いや交流の場としての機能拡充
 - ・中核となる「ミーツ（MEETS）」の整備
 - ・博物館活動の積極的な公開
- ④ 集客施設としての機能拡充
 - ・アクセスの拡充、市民参画の促進
 - ・近隣住民の日常利用を促進する施設整備

【諸室の構成・規模】

- ① 収集・保存部門：各種収蔵庫、荷解室、作業室 等
 - ② 調査・研究部門：研究室、図書室、資料整理室 等
 - ③ 展示部門：常設展示室、企画展示室、展示準備室 等
 - ④ 教育・普及部門：体験学習室、講堂、活動ルーム 等
 - ⑤ 史跡ガイダンス部門：史跡ガイダンス、映像ルーム、展望スペース
 - ⑥ 利用者サービス部門：ショップ、レストラン、キッズコーナー 等
 - ⑦ 管理部門：応接室、事務室、会議室、倉庫 等
 - ⑧ 共用部門：エントランス、廊下、階段、トイレ
- 電気・機械部門 中央監視室、空調機械室、電気設備室 等

【機能構成図（案）】



特別史跡加曾利貝塚新博物館基本計画（中間取りまとめ案）概要版

第Ⅳ章 展示計画

【常設展示】

展示の中核となる探究型展示「加曾利ラボ」、最新の研究成果を反映させた没入型展示「縄文体験空間」、対話型展示「未来ラウンジ」の3つのエリアで構成し、来館者が興味や関心に応じて、自由に見学できるようにする。

① 探究型展示「加曾利ラボ」

～研究者になったつもりで、縄文時代を深く探究～

- ・展示 縄文文化と貝塚の魅力や価値を分かりやすく紹介
調査・研究の進展に合わせて随時更新ができる構成
貴重な出土資料の保存環境に配慮した展示環境
- ・アクティブラボ 来館者が調査・研究の一端を体感できる体験を提供
- ・オープンラボ 館職員の作業エリアを公開し、調査・研究のライブ感を伝える



↓ 展示の裏付け
研究成果の反映 ↓

② 没入型展示「縄文体験空間」

～縄文人になりきり、縄文の世界を楽しむ没入体験～

- ・縄文時代の加曾利のムラとフィールドを再現した空間で、縄文人になりきって暮らしや文化を体験
- ・屋外や史跡内での体験との連携・すみわけを図り、相乗効果が得られる効果的な体験を実現
- ・デジタル技術の導入による没入できる空間演出と、来館者が自ら手や体を動かすアナログの体験をバランス良く盛り込む



時間や季節の移り変わりなどの演出により、縄文の世界への没入感を創出し、遺跡だけでは味わえない体験を提供

③ 対話型展示「未来ラウンジ」

～縄文についての対話を通じて、未来へのヒントを得る～

<特徴>

- ・多様な活動や交流が展開できる場
- ・意見やアイデアの共有・蓄積の場
- ・オンラインでの発信・交流の拠点

・縄文トークテーブル
ワークショップや
創作活動、活動の
成果発表の場



空間イメージ

第Ⅴ章 管理運営計画

【基本的な考え方】

- ① 調査・研究体制の強化
 - ・縄文文化と貝塚に関わる研究の拠点施設としてふさわしい調査・研究体制の実現
 - ・調査研究機関や外部研究者との連携の推進
- ② 「みんなでつくる・育てる博物館」を体現する運営体制の構築
 - ・計画段階から様々な主体が関わる運営の仕組みづくり
 - ・既存の博物館支援活動の活性化と新たな市民参画の促進
- ③ 活発な博物館を持続的に展開するための工夫
 - ・効率的な運営の仕組みの構築、評価・改善システムの検討
 - ・外部資金の確保に向けた取組みの積極的な展開
- ④ 市民や利用者の満足度を高める運営の実現
 - ・多様な利用者や利用形態に対応したきめ細やかなサービスの提供
 - ・市民や利用者の立場に立った開館時間や利用料金の検討

【管理運営方式】

- ① 貴重な資産の保存・継承、活用に向けた持続性や専門性の確保
 - ・特別史跡や貴重な自然環境の保全・継承と活用に必要な、組織体制の整備
 - ・専門職員が責任感や高い意識を持って安定的・持続的に活動できる環境づくり
- ② 公益的視点に立った連携体制の確保
 - ・地域振興の牽引役として様々な施設・組織とのネットワーク構築
- ③ 市の施策との連動、効率性の確保
 - ・市の文化振興施策や地域振興施策を反映した運営
 - ・高い水準での博物館活動の推進と、効率化した運営

【組織体制】

博物館の中に、史跡・公園の管理とガイダンスに関する機能、縄文貝塚文化の調査研究機能を組み込んだ組織体制とする。

【企画展示】

- ・企画展や特別展の開催
- ・発掘調査の成果や縄文貝塚文化研究の成果の公表
- ・巡回展の積極的な誘致

【コレクション展示】

- ・寄贈・寄託資料などのコレクションの展示
- ・新たな資料の収集による更新性の確保

【導入展示】

- ・館内の MEETS など各所で、常設展示や企画展示などへの興味を喚起する展示を展開

